



学校新聞 竜谷通信



令和8年6月
第3号

げんきな子
がんばる子
すなおな子
くふうする子



「山の学習」少年自然の家での2日間。日常では経験できない数々の学びがありました。

山から山へ

校長 手島 露子

見慣れた竜谷や桑谷の山を離れ、さらに奥へと分け入る一泊二日。出発の朝、五年生の表情には、あふれ出すわくわくと、かすかな緊張が入り混じっていました。その姿を見つめながら、私はふと、「この子たちは、どこまで自分たちの力でやれるのだろう」と考えていました。普段は守られた空間の中で、大人から温かな支援を受けて生活しています。が、今回は、そんな日常からほんの少し距離を置くことになります。

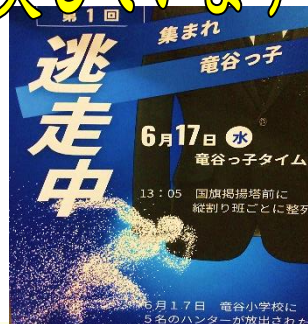
飯盒炊飯では、さつそくその場面に遭遇しました。薪割りに戸惑う姿、涙目で玉ねぎを刻む様子に、ついつい手が出そうになります。しかし、子供たち同士で言葉を交わし、「もう少し薪を入れてみようか」「いい匂いがしてきたね」と、自分たちなりに進めていきます。出来上がったカレーには、「自分たちでやりきった」という、とびっきりの隠し味が効いているようでした。

しかし、さらに大変なのは、山の学習のすべてに関わる「後始末」です。美味しくいただいた後に待っている焦げ付いた鍋や飯盒の洗い物、ぐっすり眠った後の布団やシーツをたたむ作業、楽しくクラフトした後の材料や道具の後片付け。何かを作り出す喜びややりがいとは、ある意味正反対の、地道で辛抱のいる行動です。しかし、それだけに、私はいつもここが、人間性が試され、磨かれる大切な場面だと思っています。

二日目の朝のつどいで、「私も一人のお母さんですから、皆の様子を見ていると、やってあげたい、手を出してしまいたいと思う場面がたくさんあります。でも、我慢します」という話をしました。うなずきながら聞いてくれた子供たち。自分で考え、自分で動くことでしか得られない何かがあることを、それぞれに感じてくれたのかもしれない。

山から山へと出かけて過ごした二日間は、特別な出来事の連続というよりも、日常の中にある大切なことを浮かび上がらせてくれる時間だったように思います。この経験を胸に、これからの学校生活でも、一歩ずつ自分の力で歩んでいく姿を見守っていきたいと思います。

各委員会の活動 充実しています



各委員会の活動がとても充実しています。これに伴い、昨年度から日課に組み込んだ竜谷っ子タイムの効果的な活用も進んでいます。

図書委員会は、「あじさい読書週間」を企画し、読み聞かせを行ったり、図書室の利用に合わせてポイントシールを集めるカードを配付したりするなど、本に親しむ竜谷っ子を増やそうと頑張っています。

体育委員会は、「逃走中」の計画を立てています。ただ鬼ごっこをするだけでなく、ミッションを組み込むことで、低学年から高学年まで、皆で楽しめるよう工夫しています。

放送委員会は、昨年度大好評だった「R-1グランプリ」を計画しています。すでにたくさんのエントリーがあるようです。放送委員による司会進行で、竜谷っ子のさまざまな魅力が発揮される素敵な時間を、皆で過ごせることを今から楽しみにしています。

心を整える心地よさ



担任も子供も、静かに本と向き合う。教室が心地よい空気に入るひととき

竜谷小学校の朝、8時00分からの10分間は、「自主読書」の時間です。朝はどうしても慌ただしく、時間どおりに始められなかったり、時間になってもおしゃべりをしたり、違うことをしてしまったりすることがありました。今年度のスタート時に、その課題を職員間で共有し、それぞれの学級や一人一人の自覚につなげることに取り組んできました。

6月現在、時間になると、パッヘルベルの柔らかな「カノン」の旋律とともに、静かに本と向き合う姿が当たり前の光景となってきました。わずか10分間かもしれませんが、それでも、小学生が10分間で読める文字数は、学年や読みやすさにもよりますが、高学年では約5,000～7,000字とされています。これを積み重ねていけば、大きな財産となります。

1日の始まりに静かに本と向き合い、心を整える心地よさを、一人一人が感じはじめている竜谷小学校です。

まなびの窓



子育て支援センター所長さんを講師に迎えて



それぞれの考えを尊重しながら話し合う6年生

相手の意見を大切に受け止め、理由を問いつけ合いながら考えを深めることは、これからの時代に欠かせない力です。6年生の社会科の授業では、「岡崎市はどのように子育て支援を進めるべきだろうか」という学習課題のもと、根拠に基づいて自分の考えをまとめるとともに、互いの考えを比べながら話し合いを深める姿が見られました。



イチゴづくりの工夫を教えてくださいました

2年生に続いて、今度は3年生が「浅井さんイチゴハウス」に見学に出かけました。ハウスの中は汗ばむ温度。美味しく、見た目も美しいイチゴを育てるための工夫をたくさん見つけることができました。

竜谷っ子の学びを支えてくださる学区の方に、感謝の気持ちでいっぱいです。